

SHISEIDO MEN アルティミューン パワライジング セラムユーザーインタビュー

■AI パネル②⑥

村上 誠（むらかみ まこと） / 48 歳

- 属性： 千葉県浦安市。既婚・子供 2 人。大手企業管理職。
- 美容タイプ： 美容高感度層
- 購入チャネル： 公式 EC（定期お届け便）
- 購入の動機： 10 年以上スキンケアを継続。反町隆史さんと同世代で、彼の自然体ながら鍛えられた姿に強い共感を覚える。「ああいう 50 代になりたい」という明確な目標がある。
- 現状： 完全にルーティン化しており、定期便で購入中。リニューアルで香りがより洗練されたと感じている。若手社員から「肌がツヤツヤですね」と言われることが、密かな自信に繋がっている。

<結果サマリー>

肌の規律をリーダーの自信へ：反町隆史に理想を投影し、高額美容液を『攻めの現役感』への戦略的投資とする管理職

1. 美容についてのこだわり

対象者は美容を単なる外見維持ではなく「自分を律するための儀式」と定義している。48 歳の管理職として「疲れたおじさん」に見えることを極端に忌避しており、朝の鏡の前で「よし、今日も戦えるな」と自らに喝を入れるプロセスを重視する。誰に見せるためでもなく、自分の士気を上げるために、夜が遅くても「決められたステップでケアをしないと気持ち悪くて眠れない」という、規律に裏打ちされた執着心を持っている。

2. 普段のスキンケアと目身指す肌 SHISEIDO MEN や SK-II を論理的に使い分け、夜はドゥ・ラ・メールで仕上げるなど、投資を厭わない重厚な体制を構築している。目指すのは若作りではなく、同世代の反町隆史氏のように「年齢相応の渋みはありつつ、清潔感が漲っている状態」である。肌の状態が「自分のプロフェッショナルリズムの証明」であり、言葉を交わさずとも相手に伝わる「説得力のある肌」こそが、組織を率いるリーダーとしての自信の根拠となっている。

3. 現使用美容液購入経緯 購入の契機は、同世代のアンバサダー・反町隆史氏の広告を見たことだが、単なる憧れではなく「肌の免疫力にアプローチする」という論理的な説明に納得したことが大きい。複数の競合と比較しつつも、最後は店頭で感じた「肌がシャンとする感覚」が決定打となった。かつての守りのケアから「より良い状態に持っていける」という攻めの姿勢への転換を象徴しており、自分をスイッチオンにするための不可欠な道具としてスイッチしている。

4. 現使用美容液使用実態と評価 塗布時には「重力に負けたくない」という思いから、下から上へ引き上げる能動的な所作を徹底している。満足度は非常に高く、単なる保湿効果を超え、若手社員から「肌がツヤツヤしていますね」と評された際、自らの規律が外側に漏れ出ていることに強い快感を覚えている。価格への懸念はあるが、「安くないものを使っている」事実が自身の背筋を伸ばしており、不自由なボトル形状すら凌駕する精神的な充足感を得ている。

5. 今後の使用意向 継続意向は最高評価であり、本商品を「現役感を失わないためのメンテナンスツール」と位置づけている。将来的にさらに高機能なラインへの移行は否定しないが、現在はアルティミューンの香りと使用感をもたらす「リーダーとしての品格の維持」というベネフィットに強く依存している。50代に向けて、ただ若返るのではなく「あの人はいつも凛としている」と思われるような、清潔感のある年齢の重ね方をこの製品に託している。

1. 美容についてのこだわり

インタビュアー：

本日はお忙しい中、ありがとうございます。今日は村上さんの普段の生活や、肌のお手入れについて、飾らないお話をお聞かせいただければと思います。まずは、簡単に自己紹介をいただけますか。お住まいのエリアやご家族構成、お仕事のこと、それから、スキンケアに限らず「美容」に関してご自身でこだわっていることなどがあれば教えてください。

対象者： 村上誠です。48歳です。千葉県の浦安に住んでいます。妻と大学生と高校生の子供が2人いて、平日は都内の会社で管理職として働いています。美容のこだわり……そうですね、スキンケアはもう10年以上欠かさずやっていますが、単に顔を洗って何か塗るだけじゃなくて、「清潔感を維持すること」にはかなり気を遣っています。例えば、週末は欠かさずジムに行って体を絞るとか、髪型も月に一度は必ずメンテナンスするとか。40代後半にもなると、何もしないとどんどん崩れていくじゃないですか。仕事でも若手と接する機会が多いので、「疲れたおじさん」には見えないように、自分を律している感覚はありますね。

インタビュアー：「自分を律している感覚」があるんですね。具体的に、どういう瞬間にその「律している自分」を意識されるんでしょうか？

対象者： 朝、鏡の前に立った時ですね。顔がむくんでいたり、肌がくすんでいたりすると、その日一日のモチベーションがガクッと落ちるんです。逆に、肌にツヤがあってシャキッとしていると、「よし、今日も戦えるな」という気持ちになれる。誰に見せるためというより、自分の士気を上げるための儀式みたいなものかもしれません。

インタビュアー：自分の士気を上げるための儀式、ですか。その儀式の中で、特に「ここだけは譲れない」というポイントはありますか？

対象者： 手を抜かないこと、ですね。「今日は疲れているからいいや」と思ったら、そこから一気に老け込んでいく気がして。夜、どんなに遅く帰っても、決められたステップでケアをしないと気持ち悪くて眠れないんです。それはもう、歯磨きと同じレベルで習慣化しています。

2. 普段のスキンケアと目指す肌

インタビュアー：

ありがとうございます。「自分を律する」ための儀式として、毎日欠かさず継続されているんですね。その具体的な中身について伺いたいのですが、現在、朝と夜、それぞれどのようなステップで、どんなブランドのアイテムを使っているのでしょうか？洗顔の後に肌につけるものを順番に教えてください。

対象者： 朝は時間が限られているので、わりとシンプルです。洗顔の後はまず、導入液として「SHISEIDO MEN のアルティミューン」を塗ります。その後に「SK-II MEN」のフェイシャルトリートメントエッセンス。仕上げに「SHISEIDO MEN」のモイスチャライザー（乳液状保湿液）で蓋をする感じです。

インタビュアー：朝はアルティミューン、SK-II MEN、モイスチャライザーという流れですね。夜はいかがでしょうか？

対象者： 夜はもう少し工程が増えます。クレンジング（シュウ ウエムラのオイルを使うこともあります）と洗顔のあと、朝と同じアルティミューンを塗って、SK-II。その後に、目元だけ「SHISEIDO MEN」のアイクリームを叩き込みます。最後に「ドゥ・ラ・メール」のクリームを薄く伸ばして終わりです。夜は寝ている間にしっかりリカバリーしたいので、少し重めのものも使います。

インタビュアー：かなりこだわったラインナップですね。毎日ではないけれど、週末や「ここぞ」という時

に行うスペシャルケアはありますか？

対象者：週末は、妻が使っている「クレ・ド・ポー ボーテ」のシートマスクをこっそり借りたり（笑）、あとは月一回、なじみの理容室でフェイシャルエステと眉カットをしてもらっています。自分でやるのとは違う、プロの手に委ねる時間も大事にしています。

インタビュアー：素晴らしいですね。そうした日々の積み重ね、あるいはプロのケアを通して、村上さんは最終的に「どんな肌」を目指していらっしゃるのでしょうか。

対象者：「若作り」をしたいわけじゃないんです。シワ一つないツルツルの顔になりたいわけでもない。ただ、同世代の反町隆史さんのように、年齢相応のしみはありつつも、肌にハリがあって、清潔感が漲っている状態……。「この人は自分をきちんと管理できているな」と、言葉を交わさなくても相手に伝わるような、説得力のある肌が理想ですね。

インタビュアー：「言葉を交わさなくても伝わる、説得力のある肌」……。その「説得力」というのは、ご自身の内面や仕事のパフォーマンスと、どう繋がっているとお考えですか？

対象者：管理職という立場上、人に見られる、あるいは人を評価する立場にあります。自分自身の肌すら管理できていない人間に、組織や部下の管理ができるのか？ という自問自答が常にあるんです。だから、肌が整っていることは、自分のプロフェッショナルリズムの証明というか……大袈裟かもしれませんが、自分に対する「自信のバックボーン」になっている気がします。

3. 現使用美容液購入経緯

インタビュアー：

では、今メインでお使いの「SHISEIDO MEN アルティミューン パワライジング セラム」について詳しく伺わせてください。この商品を知った最初のきっかけは、何だったのでしょうか？

対象者：はっきり覚えています。新聞広告か、あるいはネットのニュースサイトだったか……反町隆史さんがアンバサダーに就任したというニュースを見た時ですね。彼、私と同年なんですよ。あの若々しいけれど無理がない、自然体で鍛えられた姿を見て、「ああ、こういう 50 代になりたいな」と直感的に思いました。

インタビュアー：反町さんのニュースを見たのが最初だったのですか。その時、商品に対してはどのような印象を持ちましたか？

対象者：正直に言うと、「資生堂が本気でメンズの最高峰を出してきたな」という印象です。それまでも SHISEIDO MEN は知っていましたが、アルティミューンという名前は女性用で有名だったので、「あの赤いボトルのメンズ版が出るなら、間違いないだろう」という信頼感がありました。

インタビュアー：「間違いないだろう」という信頼感。そこから実際に購入に至るまで、何か他の商品と比較したり、情報を調べたりしましたか？

対象者：もちろん調べました。私は納得しないと買いたくないタイプなので。YouTube で美容成分を解説している動画を見たり、百貨店のメンズコスメコーナーのブログを読んだりしました。比較したのは、以前使っていた「クラランス メン」の美容液や、あとは「カネボウ (KANEBO)」の新しいラインですね。

インタビュアー：クラランスやカネボウと比較されたのですか。それらと比べて、何が「決定打」となってアルティミューンを選んだのでしょうか。具体的な比較軸があれば教えてください。

対象者：決め手は「成分への信頼」と「ブランドの世界観」の両立です。クラランスも悪くなかったのですが、アルティミューンは「肌の免疫力」にアプローチするというコンセプトが、40 代後半の自分には刺さりました。外側を繕うだけじゃなくて、土台から強くするというか。あとは、反町さんの「男の美しさは、内面の充実から」というメッセージが、今の自分の「自分を律する」という価値観に一番しっくりきたんです。

インタビュアー： 土台から強くするというコンセプトと、ご自身の価値観が一致したと。そもそも、美容液自体は以前からお使いだったとのことですが、直前に使っていた銘柄からアルティミューンに「スイッチ」した最大の理由は、その「価値観の一致」以外に何かありましたか？

対象者： 前のものは、少し香りが強すぎたり、塗った後のベタつきが気になっていたんです。でもアルティミューンを店頭でテスターで試した時、あの爽やかな、でも落ち着きのある香りと、スッと馴染んで肌が「シャン」とする感覚があって。その使い心地の良さが、最後のひと押しになりました。毎日使うものなので、あの「塗った瞬間の手応え」は譲れなかったですね。

インタビュアー： 「肌がシャンとする感覚」ですか。以前のものを使っていた時には感じなかった、アルティミューンならではの感覚なんですね。

対象者： そうですね。ただ潤うだけなら他にもある。でも、これを塗ると「よし、今日もリーダーとしてシャキッとしよう」と思える。単なる化粧品以上の、自分をスイッチオンしてくれる道具のように感じています。

4. 現使用美容液使用実態と評価

インタビュアー：

アルティミューンの使い方について、より具体的にお聞きします。この美容液を肌につける際、村上さんなりに意識していることや、こだわりはありますか？例えば、付けるタイミングや部位、指や手の動かし方など、詳しく教えてください。

対象者： 意識していること……そうですね、まずタイミングは洗顔後、間髪入れずに塗るようにしています。肌が乾き始める前に、という感覚です。塗り方は、ただ広げるんじゃなくて、手のひら全体で顔を包み込むようにして、下から上へ、グッと引き上げるようなイメージで馴染ませています。特に、年齢が出やすい目元やほうれい線のあたりは、指の腹でトントンと軽く叩き込むように、念入りにやっていますね。

インタビュアー： 「下から上へ引き上げる」ように。なぜ、その塗り方を意識されているのでしょうか？

対象者： やっぱり、重力に負けたくないという気持ちがあるんだと思います（笑）。朝の儀式ですから、肌の細胞ひとつひとつに「今日もシャキッとしろよ」と喝を入れるようなつもりでやっていますね。適当に塗ると、意識して肌を持ち上げるように塗るとでは、鏡を見た時の「顔の締まり」が違う気がするんです。

インタビュアー： ご自身への「喝」なんですね。では、このアルティミューンの満足度を5段階評価（5が最高、1が最低）で表すと、現在はどの段階になりますか？

対象者： うーん、4.5……いや、限りなく5に近い「4」ですね。

インタビュアー： 4ですね。その理由、特にどのあたりに満足を感じているのか、逆に何が物足りないのかを教えてください。

対象者： 満足しているのは、やはり「肌の立て直し力」です。寝不足の日でも、これをしっかり塗り込んでおけば、翌朝の肌に疲れが出にくい。仕事でプレッシャーがかかる時期でも、肌が荒れずに安定しているのを感じた時に「ああ、やっぱりこれだな」と満足感を得られます。物足りない点は……先ほども少し言いましたが、ボトルの底に残った分がプッシュしても出てこないことくらいですね。貧乏くさいですが、最後の一滴まで使い切りたい成分だと思っているので。

インタビュアー： ありがとうございます。その他に、使い心地や香りなど、気に入っている点はありますか？

対象者： 香りは非常に気に入っています。シトラス系の爽やかさの中に、どこか凛としたウッディな重厚感があって。あの香りを嗅ぐと、オンとオフが切り替わる感覚になります。ベタつかずにサラッと馴染むのに、内側はしっかり潤っているという絶妙なテクスチャーも、メンズ用として完成度が高いなと感じます。

インタビュアー： 村上さんにとって、このアルティミューンの「最大の魅力」を一言で表すとしたら、どんな言葉になりますか？

対象者： 私にとっては、「自信のメンテナンスツール」ですね。これを使っていることで、48歳の自分を肯定できるというか。ただの美容液を超えて、リーダーとしての品格や清潔感を支えてくれる、お守りのような存在です。

5. 現使用美容液 今後の使用意向

インタビュアー：

「自信のメンテナンスツール」として、村上さんの日常に深く入り込んでいるんですね。では、このアルティミューンを今後も使い続けたいと思われますか？ こちらも5段階評価で教えてください。

対象者： これは「5」です。迷いなく使い続けます。

インタビュアー： 満点の「5」ですね。その理由と、使い続けることで肌や生活にどのようなことを期待されていますか？

対象者： 先ほども言った通り、反町さんのような「自然体でカッコいい50代」が私のマイルストーンなんです。50歳、60歳になっても、この美容液を使い続けることで「現役感」を失わずにいたい。部下から憧れられるとまでは言いませんが、「あの人はいつも凛としているな」と思われるような、清潔感のある年齢の重ね方をサポートしてくれることを期待しています。

インタビュアー： 清潔感のある年齢の重ね方、ですね。今のところアルティミューンへの信頼は揺るぎないようですが、他に興味を持っているブランドや美容液はありますか？

対象者： 最近、百貨店のカウンターを通るたびに「ポーラ (POLA) の B.A MEN」が目に入りますね。非常に高機能だと聞きますし、もっと年齢を重ねて、今のケアでは追いつかないと感じる瞬間が来たら、さらに上のラインとして試してみるかもしれません。あとは、先ほど言ったSK-IIの美容液も気になりますが、今のところはアルティミューンの使用感と香りのバランスが一番気に入っています。

インタビュアー： ありがとうございます。最後に、このアルティミューンに対して、何か要望や「もっとこうなればいいのに」と思うことがあれば、どんな些細なことでもお聞かせください。

対象者： そうですね……中身については文句なしなのですが、もし可能なら、もっと「詰め替え (レフィル)」の仕組みを強化してほしいです。毎回立派なボトルを捨てるのは、今の時代、少し気が引けるというか。あとは、出張やジムに持ち運べるような、もう少しスマートなサイズのパッケージがあると、私のライフスタイルにはより馴染むなと思います。

<追加>

インタビュアー：

かなりこだわってスキンケアをなさっているとお見受けしました。スキンケアを「外からのケア」とした場合、内側からのケア……つまり食事や睡眠、サプリメントなど、体の中から整えることで意識されていることはありますか？

対象者： もちろん、そこはセットだと思っています。どれだけ高い美容液を塗っても、中身がボロボロだったら「説得力のある肌」にはなれませんから。一番意識しているのは、やはり「タンパク質」の摂取です。ジムでのトレーニング後だけでなく、普段の食事でも鶏肉や魚、大豆製品を意識して摂るようにしています。肌も体も、結局は食べたもので作られるという感覚が強いですね。

インタビュアー：「タンパク質」ですね。食事以外ではいかがでしょうか？

対象者：睡眠の「質」にはかなり投資しています。管理職としてストレスも多いので、深く眠れないと翌朝の顔にすぐ出るんです。だから、枕をオーダーメイドにしたり、寝る 1 時間前からはスマホを見ないようにしたり。それから、サプリメントも少し。マルチビタミンと、最近は抗酸化を意識してビタミン C を多めに摂っています。「内側をクリーンに保つこと」が、結果的に外側の肌のツヤに繋がっていると実感しています。

インタビュアー：ありがとうございます。食事や睡眠といった土台があってこそその「アルティミューン」という位置づけなのですね。